

## 事業概略書

ひきこもり地域支援センターにおける支援の質の向上及び  
平準化を目的とした職員の養成手法に関する研究事業  
有限責任監査法人トーマツ（報告書A 4版 101頁）

## 事業目的

ひきこもり地域支援センター（以下「センター」という。）は、ひきこもりに特化した相談窓口として47都道府県及び20政令指定都市に設置され、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師等の資格を有する「ひきこもり支援コーディネーター」が中心となって、専門的な相談支援等を実施している。また、センターは、地域における関係機関とのネットワークの構築や、ひきこもり支援に係る情報の幅広い提供等、地域におけるひきこもり支援の拠点としての役割も担っており、その機能のさらなる向上が求められているところである。

このセンターを含むひきこもり支援機関については、先行研究において、支援の対象となるひきこもり状態にある当事者や家族のおかれている状況、年代、背景等が多様であることや、ひきこもり支援機関の支援の強みや特徴、また、機関においてひきこもり相談に携わる支援者の専門性、経験、支援スキル等も多様であることが示されている。さらに、先行研究では、各ひきこもり支援機関での研修やスキルアップの制度は乏しく、個々の自主性の任せられることが多いという点が課題として挙げられている。

当調査研究事業では、そのような背景に鑑み、全てのセンターで統一的に取り組むことが可能な体系的な研修カリキュラムの検討を行った。具体的には、国が全国のセンターを対象として研修を行う場合に焦点をあて、その研修カリキュラム及び研修プログラムを検討することとした（ただし、全国のひきこもり地域支援センターで統一的な活用を求める主旨で作成するものではない）。研修カリキュラムや研修プログラムを検討し、作成することにより、各センターの支援内容や職員の支援スキルを平準化し、延いては支援が必要な者に適切な支援を提供できる環境を整備することを目的とした。

## 事業概要

本調査研究事業においては、検討委員会の設置・開催、研修試行実施にかかる作業部会の設置・開催、ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査、研修の試行実施、研修カリキュラム及びプログラムの作成といった5つの活動を行った。

検討委員会の設置・開催

センターにおける支援の質の向上及び平準化を目的とした職員の養成手法に関して専門的な知見に基づく検討・助言等を受けるために、医学的観点、福祉的（心理・社会的）観点、当事者からの観点、それぞれにおける専門性を有する8名をメンバーとする検討委員会を設置し、検討委員会を4回開催した。

検討委員会では、センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査の調査項目や集計結果、研修カリキュラム案及び研修プログラム案の作成、研修の試行実施の方法、研修の試行実施を受けた研修カリキュラム案等の改定等について議論・検討を行った。

研修試行実施にかかる作業部会の設置・開催

本事業において研修を試行的に実施するために、支援の姿勢（当事者・家族の立場から）、アセスメント、社会資源、発達障害等の専門性を有する6名をメンバーとする研修試行実施にかかる作業

部会を設置し、開催した。

作業部会では、講義内容の検討や研修教材の作成、実際の講義、講義後の質疑への対応等を行った。

#### ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査

センターにおける支援の質の向上や標準化を目指す上で必要と考える研修の内容や研修の実施方法等のニーズを把握することを目的に、全国のセンターを対象としたアンケート調査を実施した。

調査はインターネット調査の方法で実施し、対象とした全国のセンター70所のうち、67所からの回答を得た（回収率95.7%）。

#### 研修の試行実施

国が実施するひきこもり支援担当者を対象とした研修に焦点を当て、そのカリキュラム及びプログラムを検討する際の参考情報を得ることを目的に、2カ所のセンターに協力を依頼し、研修の試行実施を、オンライン会議形式にて実施した。

試行実施には、協力先のセンター及び近隣のセンターに所属する職員が参加した。

#### 研修カリキュラム及びプログラムの作成

当事業における検討委員会での議論、ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査、研修の試行実施をふまえ、国が全国のセンターを対象として行う場合を想定した研修カリキュラム及びプログラムを作成した。

### 調査研究の過程

#### 検討委員会の設置・開催

本事業においては検討委員会を4回開催し、センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査の調査項目や集計結果、研修カリキュラム案及び研修プログラム案の作成、研修の試行実施の方法、研修の試行実施を受けた研修カリキュラム案等の改定、報告書の内容等について議論・検討を行った。

#### < 検討委員会の議題 >

##### 第1回検討委員会

議題：

- ・ 開会挨拶
- ・ 検討委員会委員紹介
- ・ 事業概要及びスケジュールについて
- ・ ひきこもり地域支援センターに関する情報共有
- ・ 厚生労働省データを基にした情報共有
- ・ 先行研究の結果共有(令和2年度社会福祉推進事業「ひきこもりの多様性とその支援手法に関する調査研究事業」)
- ・ 本事業の成果物について
- ・ ひきこもり地域支援センターに関する意見交換
- ・ アンケート調査について

##### 第2回検討委員会

議題：

- ・ 検討委員会委員紹介
- ・ 国が来年度実施する研修の大枠について
- ・ 本日のゴールと今後の流れ
- ・ アンケート調査結果について
- ・ 研修カリキュラムについて

- ・ 研修の試行実施について

### 第3回検討委員会

議題：

- ・ 研修(試行実施)についての報告
- ・ 研修カリキュラムについて
- ・ 研修プログラムについて
- ・ 報告書(骨子)について

### 第4回検討委員会

議題：

- ・ 報告書の内容について

### 研修試行実施にかかる作業部会の設置・開催

作業部会では、講義内容の検討や研修教材の作成、実際の講義、講義後の質疑への対応等を行った。

< 研修試行実施に係る作業部会の内容 >

#### 第1回作業部会

実施内容：

- ・ 研修日程の調整
- ・ 講義内容の検討
- ・ 研修教材の作成 等

#### 第2回作業部会

実施内容：

- ・ 研修における講義
- ・ 講義実施後の質疑応答 等

### ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査

アンケート調査は以下の内容で実施した。

#### (1)目的

センターにおける支援の質の向上や標準化を目指す上で必要と考える研修の内容や研修の実施方法等のニーズを把握することを目的として実施した。

#### (2)方法

インターネット調査により実施した。具体的には、対象となるセンターに対して、本事業の概要と調査の目的、調査回答用のインターネット画面URLと二次元バーコード、インターネット画面にログインするためのID・パスワード、調査期間、問い合わせ先を記した依頼状を郵送し、インターネット上での回答を求めた。

#### (3)対象

全国のひきこもり地域支援センター70所 に対して、センター職員の意見を可能な範囲で広く収集した上で回答いただくように依頼した。

#### (4)調査の実施時期

2021年10月14日(木)～2021年11月12日(金)

#### (5)調査内容

アンケート調査では、ひきこもり地域支援センターにおいて支援を担当する方(新任者等)に対して実施すると有意義であると考えられる研修内容、国が研修を行う場合に、優先して研修を行うべきと考える対象、参加しやすい研修の開催方法、参加しやすい研修の開催方法、試行実施への参加意向、研修の教材例、基本情報といった内容の質問を設けた。

#### (6)回収結果

67件の回答を得た(回収率95.7%)。

## (7)主な結果

- アンケート調査結果からは、新任の支援担当者にとって必要と思われる研修の内容は多岐に渡るが、「ひきこもり」についての基本的な理解や当事者及び家族に対する基本的な理解、支援の流れや内容の基礎知識といった、支援の根幹をなし、足元を固めるような事項に関する研修のニーズが比較的高いことが考えられた。
- 新任の支援担当者を対象とする以外で優先度が高い研修対象者としては、「全職員向けのフォローアップ研修」との回答が6割を超え、対象者として高いニーズがあることが把握できた。
- 研修の実施方法については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けてか「オンラインでのライブ配信」を希望する回答が6割を超えた。他方、研修内容でも、他のセンターとの事例共有や事例検討、ネットワークづくりといったニーズが把握できた訳であるが、それらを実施する上で欠かすことのできない参加者同士のコミュニケーションが取りやすい「対面での集合研修」を希望する回答も4割を超えた。
- 開催時期は、新任の支援担当者で言えば、恐らく4月に着任するケースが多いと考えられるが、着任時期から長期間空くことのない6月に開催を望む回答が6割近く、5月に開催を望む回答が半数近くあった。
- プログラム全体の所要時間としては、「半日」、「1日」、「複数日」といった回答が得られ、ある程度まとまった時間での開催が望まれていることが伺えた。また、研修の開催頻度についても、「半年に1回」との回答が半数を超え、年に1度きりではなく、2回の開催を望む回答があった。
- 本調査研究事業において実施する研修プログラムの試行実施への参加意向については、参加しないと回答のあった1件を除き、すべての回答者が「参加したい」やもしくは「参加を検討したい」と回答し、研修への関心の高さが伺えた。

## 研修の試行実施

国が実施するひきこもり支援担当者を対象とした研修に焦点を当て、そのカリキュラム及びプログラムを検討する際の参考情報を得ることを目的に、2つのセンターに研修の試行実施への協力を依頼したところ協力が得られ、研修の実施日や参加者等について協議しながら、研修の試行実施に向けて調整を行った。

なお、2つのセンターの近隣に位置するセンターのうち、本事業において実施したアンケート調査で、研修プログラムの試行実施に関して「関心がある」と回答したセンターに対しても、研修を案内した。

実施した研修試行実施の内容は以下の通りである。

<研修プログラム(2月4日(金)、オンライン会議形式で開催)>

	時間	テーマ
講義1	講義60分 質疑応答10分	支援の姿勢・まなざし(当事者・家族の立場から)
講義2	講義60分 質疑応答10分	ひきこもり支援におけるアセスメントについて
講義3	講義60分 質疑応答10分	地域における多様な社会資源を活用した支援

<研修プログラム（2月8日（火）オンライン会議形式で開催）>

	時間	テーマ
講義 1	講義60分 質疑応答10分	支援の姿勢・まなざし(当事者・家族の立場から)
講義 2	講義60分 質疑応答10分	ひきこもり支援におけるアセスメントについて
講義 3	講義60分 質疑応答10分	発達障害の基礎

#### 研修カリキュラム及びプログラムの作成

当事業における検討委員会での議論、ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査、研修の試行実施をふまえ、国が全国のセンターを対象として行う場合を想定した研修カリキュラム及びプログラムを作成した。

#### 事業結果

当事業においては、検討委員会での議論、ひきこもり地域支援センターを対象とした研修ニーズにかかるアンケート調査、研修の試行実施をふまえ、国が全国のセンターを対象として行う場合を想定した研修カリキュラム及びプログラムを作成した。

研修カリキュラムは、「 . ひきこもり支援の在り方」、「 . 相談支援に必要な知識とスキル」という2つの要素から構成されており、さらに「 . 『ひきこもり』についての基本的な理解と支援者としての姿勢」、「ひきこもり支援の全体像」、「相談支援に必要な知識とスキル」、「相談支援（電話相談・SNS相談）や居場所づくりなど支援メニューごとの実施方法」、「支援体制整備」、「国の施策や予算など政策動向」、「相談支援事例の理解」といった項目で構成されている。

研修プログラムは、国が、初任者（相談支援の経験年数1～2年程度を想定）向けの研修と、全職員を対象としたフォローアップ研修を行う場合を想定し、初任者研修、全職員を対象としたフォローアップ研修、共に2日間かけて実施する場合の内容を検討して作成した。この研修プログラムでは講義/演習の内容や所要時間、講師またはスーパーバイザー（SV）の案についても提示している。

本事業で作成した研修カリキュラム及び研修プログラムが活用されることで、支援が必要な者に対して適切な支援を提供できる環境整備の一助になると考える。

#### 事業実施機関

有限責任監査法人トーマツ

〒100-8360 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビルディング

TEL：(03)6213-1660